

1	公開授業実施日時	2019年2月22日（金）10:35～11:20
2	場所	京都教育大学附属桃山中学校 社会科教室
3	対象	1年3組 39名
4	授業者	秋山 雅文
5	島名	グローバル・ヒストリー
6	単元名	社会科 歴史的分野 近世の日本—中世から近世へ
7	関連する教科・領域	
8	単元の目標・ねらい	戦国大名の小国乱立状態から統一政権の成立に向かう過程を、ヨーロッパ人との関わりや制度・文化の変化を視点として考える。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	異文化と出会った時のようすや当時の人々の考えを推測し、その恩恵を生かしたことの重要性を、その後の時代の動きから考える。
10	単元の評価規準【教科・領域として】	A 中世から近世へ移り変わる要素となった出来事について、それぞれの持つ意義と統一政権に及ぼした影響を分析できる。 B 中世から近世に移り変わる要素になった出来事が何かを分析できる。
11	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	A 異文化との出会いのようすを推測し、その恩恵が後の時代にどのように活かされているかを分析できる。 B 異文化との出会いのようすやその恩恵を活かす大切さを理解できる。
12	単元計画	第1次 イスラム教の世界とキリスト教の世界 1時間 第2次 つながれていく世界 1時間 第3次 ヨーロッパ人の来航と信長 2時間（本時はその1時間目） 第4次 全国統一と近世社会の基礎づくり 2時間 第5次 秀吉の海外政策 1時間
13	本時の目標	鉄砲やキリスト教が伝来した時代のようすをより現実的に捉え、ヨーロッパ人との関わりによる影響やその後の動きを考える。
14	本時の展開	≪別紙指導案を参照≫
15	グローバル・スタディーズとしての特徴	異文化との出会いのようすを、シミュレーション活動を用いて擬似的に再現した。当時の人々の状況や思いを、自分がその立場になって考えることを通して、その恩恵の大きさや恩恵を活かす方策に目を向けさせることができる。
16	授業者から一言	少人数グループで話し合いながらシミュレーション活動に取り組むことで、楽しみながら学習できる教材です。

社会科(グローバルヒストリー) 学習指導案

附桃中1年3組(社会科教室)

指導者名 中学校:秋山 雅文

1. 単元名 「第4編 近世の日本 1 中世から近世へ」

2. 授業の構想

本時は、京都教育大学のグローバル人材育成研究の一環として、特設の時間を設定して実施する。大航海時代から始まったヨーロッパ人の世界進出が日本にまで到達し、日本人がはじめてヨーロッパ文化に出会う場面を取り上げる。驚きや偏見から、接触、交流、理解へと移っていくようすを再現するべくシミュレーション活動に取り組む。ただし、戦国時代は国内での争いが中心であり、ヨーロッパ人との関わりは最優先の事項ではなかったことを認識しておく必要がある。時代のようにすを踏まえた上で、自分たちならどのようにするかを考えて判断していく活動は、新しく起きた出来事に対して「なぜそうなったのか」「これからどうなるのか」などの課題や問いを次々と更新していく学びにつながると考えた。また、設定された立場が異なる4人のチームで取り組むことで、新しい視点や異なる考え方に触れてさらに課題や問いを深めることができると期待している。

1 中世から近世へ (全8時間/3時間目)

- ① イスラム教の世界とキリスト教の世界 …… 1時間
- ② つながれていく世界 …… 1時間
- ③ ヨーロッパ人の来航と信長 …… 2時間 (本時はその1時間目)
- ④ 全国統一と近世社会の基礎づくり …… 2時間
- ⑤ 秀吉の海外政策 …… 1時間
- ⑥ 安土桃山時代の文化 …… 1時間

3. 本時の目標

- ・鉄砲やキリスト教が伝来した時代のようにすをより現実的に捉え、ヨーロッパ人との関わりによる影響やその後の動きを考える。(社会科歴史としての目標)
- ・異文化と出会った時のようにすや当時の人々の考えを推測し、その恩恵を生かしたことの重要性を、その後の時代の動きから考える。(グローバルヒストリーとしての目標)

4. 本時の展開計画

学習活動	子どもの姿 ○は問いを表す	学習活動と支援の留意点
学習の対象となる時代のようにすを確認する。 シミュレーション活動「戦国島津家」に取り組む。	○種子島に巨大な船が漂着した、どう対応するか。 ・軍隊を送って制圧する。 ・人として困っている相手を助ける。 ○漂着船の乗員と島民が衝突した、何を指示するか。 ・軍隊を送って制圧する。 ・双方から事情を聴き解決に努める。 ○ポルトガル人がキリスト教の布教を望んだ、どう対応するか。 ・許可する。・支援する。・拒否する。	興味を持てるような逸話から戦国時代のようにすを描かせる。 常時設定している4人班で取り組む。それぞれに決定権を持つ役割を担当させ、主体的な活動につなげる。 相談で意思決定することが必要な場面を設定し、協働的な活動を促す。 板書で年表整理を同時に進め、学習内容との関連を確認する。 意思決定の結果とその理由を発

<p>シミュレーション活動の結果を整理する。</p> <p>今後の学習に対する見通しを持つ。</p>	<p>○財政状況が悪化した、ポルトガル人をどう扱うか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軍事費用を優先させて排除する。 ・あくまでも支援を続ける。 <p>○自分たちの選択した結果として、その後どのようなようになっていくか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・似た状況の大名から判断する。 ・南蛮貿易、キリスト教に対する姿勢から判断する。 ・財政面、軍事面の状況から判断する。 	<p>言させながら進行し、各班の考えを共有させる。</p> <p>各班の結果を確認し、相対的に判断できるよう促す。</p> <p>九州のキリシタン大名や、織田信長に敗れた大名にも触れながら、織田信長が勢力を強めていく要因を考えさせる。</p>
--	---	---

1時間での学習を予定しているが、学級によって進度に大きな差が出ることと、急いで進めると学習効果が損なわれることから、活動途中で打ち切り続きを次時に持ち越す場合が考えられる。

以下は、シミュレーション活動の進行原本を示す。

ザ・戦国島津家

16世紀、戦国時代の中にあつてその強さを知られた九州鹿児島の大名家島津(しまづ)家。あなたたちは、島津家の命運を決定する立場にあつた重臣4人です。激動の時代を乗り越え、島津家の国力を高めることが目的です。国力= 軍事力+財力

各ターンでは、予算を使って政策を実施します。限られた予算を何に使うかを評定(ひょうじょう=相談)で決めてください。各ターンには、前編と後編があり、2回に分けて予算を使います。予算の残高は、次のターンに持ち越されます。ターン3の後に、国力を計算して結果を判定します。

戦国島津家4奉行は次の通りです。すべての役職には、自分だけで決定できる「専決事項」があります。それ以外は「評定事項」であり、4人で相談して決定します。どの役職を担当するか決めてください。

戦奉行(いくさぶぎょう)・・・国衆と呼ばれる家臣たちに命令して、軍隊を動かす権限を持つ

仕置家老(しおきがろう)・・・非常事態への対応や、新しい政策を決定する権限を持つ

国家老(くにがろう)・・・町奉行。郡奉行を支配下に置き、住民の対応や警察の役目を務める

勘定奉行(かんじょうぶぎょう)・・・物品を買ったり金品を送ったりするなど、財政の管理を務める

<ターン1>前編

1543年、九州北部では、大友(おおとも)家、相良(さがら)家などが勢力を強めており、彼らに対抗するためにも薩摩国(鹿児島県西部)の統一が緊急の命題になっています。島津分家との激しい勢力争いが、鹿児島を中心に続いていました。そのさなかに、種子島の役人から緊急事態が告げられます。

申し上げます。種子島に巨大な船が参りました。破損がひどく、漂流してきたと思われます。見たことがない巨大な船です。島民の話では、天狗が乗っていると。私は見ておりませんが、島民たちはひどく不安がっております。いかが、いたしましょうか。

○当初予算30の範囲内で、各政策事項を実施するかを決定します。実施しない場合は、見送りとなります。前編後編を合わせての予算です。通常ならその半分の15の範囲ですが、考えて決めてください。

- 1 **戦奉行専決事項** 島津分家からの反撃に備えて、薩摩国各地に軍勢を派遣する。(消費財力6)
- 2 評定事項 島津分家を滅ぼすために、大軍勢を遠征させる。(消費財力15)
- 3 **仕置家老専決事項** 種子島の漂流船を攻撃するために、軍勢を派遣する。(消費財力4)
- 4 **国家老専決事項** 種子島の島民に武器を持たせ、漂流船を攻撃させる。(消費財力1)
- 5 **勘定奉行専決事項** 島津分家に金品を贈り、しばらく反撃が起きないようにする。(消費財力4)

後編1-1 事項2を実施した場合、島津分家を滅ぼし、薩摩国の大半を支配します。(増加軍事力12)

事項3も4も実施しなかった場合、島民が不安のために逃亡します。(減少財力3)

後編1-2 事項1・2・5のどれも実施しなかった場合、関所役人から緊急事態が告げられます。

申し上げます。島津分家が薩摩の国人を集めて、鹿児島城に攻め寄せてきております。このままでは、鹿児島城は持ちこたえられないと思われます。いかが、いたしましょうか。

- 6 **戦奉行専決事項** 緊急に軍勢を集め、島津分家の攻撃軍を撃退する。(消費軍事力8)

- 7 **勘定奉行専決事項** 島津分家に多額に金品を送り、攻撃を中止させる。(消費財力12)
- 8 評定事項 隣国の肝付(きもつき)家に援軍を依頼し、攻撃軍を撃退する(消費財力2)

後編1-3 事項3または4のどちらかを実施した場合、種子島の役人から緊急事態が告げられます。

申し上げます。漂流船の天狗たちが、島民の村に食料を求めて現れました。島民が追い返そうとして武器で殴ったところ、天狗たちが不思議な武器を使い、犠牲者が出ております。いかが、いたしましょうか。

- 9 **戦奉行専決事項** 多少の犠牲は覚悟して、漂流船を総攻撃する。(消費軍事力2)
- 10 **勘定奉行専決事項** 鹿児島から食料を運び、漂流船に贈る。(消費財力5)
- 11 評定事項 警備を固めて、漂流船を監視する。(消費財力2)

後編1-4 城を攻められ事項6・7どちらも実施しなかった場合、城を奪われます。(減少軍事力10)

事項9を実施せず、事項10か11を実施した場合、ポルトガル人から鉄砲を手に入れます。

<ターン2>前編

1549年、いくつもの戦いに勝ち、薩摩国の統一に成功します。国内の支配体制を確立させていくとともに、隣国への進出準備を進めています。そのさなかに、鹿児島港の役人から緊急事態が告げられます。

申し上げます。ポルトガル船が鹿児島港に現れました。前回の船よりも大きく、きらびやかな旗を掲げています。船員が小舟で贈り物を渡していったそうです。代表のような者が、神の教えを広めたいと申しておるそうです。いかが、いたしましょうか。

○年貢による収入を、財力に加算します。加算額は、現在の支配状況によってどれか1つに決まります。

薩摩国大半を支配(加算財力40) 島津分家抗争中(加算財力25) 鹿児島城陥落(加算財力15)

- 12 評定事項 鉄砲を手に入れている場合、その作り方を研究して自作する。(消費財力3)
- 13 **仕置家老専決事項** 島津分家に味方した国人たちを、家臣として役職につける。(消費財力9)
- 14 **仕置家老専決事項** 島津分家に味方して国人たちを、国外に追放する。(消費財力1)
- 15 評定事項 神の教えを広めることを認め、上陸を許可する。(消費財力1)
- 16 評定事項 神の教えを広めることを禁じ、退去させる。(消費財力1)
- 17 **勘定奉行専決事項** ポルトガル船に、贈り物のお礼として金品を贈る。(消費財力4)
- 18 **戦奉行専決事項** 隣国への進出に備えて、多くの兵士を雇う。(消費財力6)
- 19 **国家老専決事項** 農民を下級武士として、軍勢に加える。(消費財力3)

後編2-1 事項12・15・17のどれか2つを実施した場合、軍勢に鉄砲を装備できます。(増加軍事力4)

事項13・18・19のどれか2つを実施した場合、軍団制度が確立されます。(増加軍事力9)

後編2-2 事項15か16のどちらかを実施した場合、町役人から相談が持ち込まれます。

申し上げます。ポルトガル船の者どもからの申し出が多数きております。はじめてのことばかりで、どうして良いか分かりませぬ。いかが、いたしましょうか。

- 20 評定事項 キリスト教を広める宣教師が、教会を建ててほしいと言っています。(消費財力6)
- 21 評定事項 ポルトガル船の船員が、鉄砲の作り方を教えると言っています。(消費財力3)
- 22 評定事項 宣教師が、貧しい人々に食料を提供したいと言っています。(消費財力1)
- 23 評定事項 船長が、ポルトガル船用の港を作ってほしいと言っています。(消費財力12)
- 24 評定事項 船員が、新しい農作物の植え付けを教えると言っています。(消費財力1)
- 25 評定事項 船員が、自分たちの費用で病院を開設すると言っています。(消費財力3)

後編2-3 事項20または23を実施した場合、スペイン船が2隻来航します。(増加財力6)

事項21を実施した場合、鉄砲を手に入れます。

事項22・24・25を実施した数に応じて、収入が増えます。(実施1=増加財力3, 2=増加6, 3=増加10)

<ターン3>前編

1554年、薩摩国の支配を確立し、隣の大隅国(鹿児島県東部)の統一に向けて、戦いが続いています。支配地方と家臣が増えたため、財政状況が厳しくなっています。そのさなかに、大隅国攻略中の侍大将からの使者が緊急事態を告げます。

申し上げます。大隅国の国人どもが強硬に立ち向かい、攻略が難航しております。肥後国(熊本県)の相良家が、陰で国人どもを支援していることが分かりました。いかが、いたしましょうか。

○支配地が増えているものの、必要経費が増えています。年貢による収入を、20財力に加算します。

- 26 **戦奉行専決事項** 鉄砲を手に入れている場合、大隅国での戦いで使用する。(消費財力1)
- 27 **仕置家老専決事項** 増え過ぎた家臣のうち、最近に雇った者を辞めさせる。(消費財力2)
- 28 **仕置家老専決事項** 増え過ぎた家臣のうち、働きが悪い者を辞めさせる。(消費財力2)
- 29 **国家老専決事項** 農民の納める年貢を、一律に5割増にする。(消費財力3)
- 30 評定事項 鉄砲の大量生産を目指して、作業所を作る。(消費財力6)
- 31 **勘定奉行専決事項** 相良家に金品を贈り、大隅国から手を引かせる。(消費財力9)
- 32 評定事項 鹿児島に居住しているポルトガル人から、税を取る。(消費財力1)

後編3-1 事項27・28・29・32を実施した数に応じて、収入が増えます。

(実施1=増加財力3, 実施2=増加財力7, 実施3=増加財力11, 実施4=増加財力16)

後編3-2 事項27か28のどちらか1つでも実施した場合、町奉行が緊急事態を告げます。

申し上げます。追放された家臣たちが、島津分家に集まり反乱を企てているという情報が入りました。いかが、いたしましょうか。

- 事項33 **戦奉行専決事項** 軍勢を差し向け、ただちに征伐する。(消費財力6)
- 事項34 評定事項 追放した家臣を、全て雇い入れる。(消費財力8)
- 事項35 **勘定奉行専決事項** 島津分家に金品を贈り、反乱を思いとどまらせる。(消費財力5)

後編3-3 事項29を実施した場合、郡奉行が緊急事態を告げます。

申し上げます。薩摩国の農民たちが、一揆を起こす計画を立てているという情報が入りました。いかが、いたしましょうか。

- 事項36 **国家老専決事項** 農民の年貢を半減して、一揆を思いとどまらせる。(消費財力8)
- 事項37 **仕置家老専決事項** 役人を差し向け、かかわった農民を捕まえる。(消費財力3)
- 事項38 評定事項 宣教師に説得してもらい、一揆を思いとどまらせる。(消費財力1)

後編3-4 事項36も37も実施していない場合、一揆が発生します。(減少財力13)

後編3-5 賢君として名高い若殿様から、国政にかかわるお尋ねがあります。

いつも島津家のために働き、ご苦労である。大隅国の統一も目前であるが、島津家の勢力を日向(ひゅうが=宮崎県)国にも広げることが、私の考えである。今、この時に無理をしても大隅国を統一しなくては、日向国は豊後(ぶんご=大分県)の大夫家に押さえられてしまう。財政状況が厳しいことは、承知しておく。そこで、私に考えがある。鹿児島に居住させておるポルトガル人にかかる費用を見直し、採算が悪いものを整理せよ。他の方策でも良い。とにかく、大隅国統一の戦費、財力60を準備いたせ。

○財力が60を必ず越えるように、政策事項を実施します。

- 事項39 評定事項 鹿児島教会からは収入がないので、支援を打ち切る。(増加財力6)
- 事項40 評定事項 貿易船は年に数隻しか来ないので、外国船用の港を閉鎖する。(増加財力12)
- 事項41 評定事項 ポルトガル人の財産を没収し、国外に追放する。(増加財力16)
- 事項42 評定事項 娘を人質に出し、相良家から借金をする。(増加財力9)
- 事項43 評定事項 家臣たちの給料を、3年間だけ半額にする。(増加財力14)
- 事項44 評定事項 鉄砲を所有している場合、全て売却する。(増加財力5)

後編3-6 若殿様の命令通り、大隅国を統一します。(消費財力60)

事項41を実施した場合、ポルトガル人との戦いが起きます。(減少軍事力8)

事項42を実施した場合、家臣たちの信頼が下がります。(減少軍事力5)

事項43を実施した場合、家臣たちの気力が大幅に下がります。(減少軍事力12)

<最終結果> 国力を計算するために、残っている財力を全て軍事力に変換します。変換率は、財力1=軍事力2、です。財力を変換したものと、残っている軍事力を合わせたものが、国力です。

最後に、右のような表をノートに書き、自分たちの結果がどの位置に当たるかを考える。その後、どのようになっていくかを予測する。

それぞれのカテゴリーには実際にどのような大名がいて、どうなっていたかを考える。右上に位置した織田信長が、勢力を強めていくことを、その他の事柄にも触れながら確認する。

